

都市再生整備計画(第4回変更)

くらよし えきしゅうへん ち く
倉吉駅周辺地区

とっとり 鳥取県 くらよし 倉吉市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	鳥取県	市町村名	倉吉市	地区名	倉吉駅周辺地区	面積	136.9 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標
 大目標：“脈わいと交流”梨の花温泉郷のエントランスの実現
 目標1：倉吉駅を中心とした交通結節機能の強化及び都市機能の更新
 目標2：バリアフリーで人にやさしく、景観に配慮した交流空間となる施設整備の推進とまちなみ環境づくり

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 倉吉市は鳥取県のほぼ中央部に位置し、江戸時代には倉吉陣屋(じんや)が置かれ、商工業都市として繁栄してきた。平成17年には関金町と合併し、新倉吉市の人口は約五万四千人ととなったが、近年は人口の減少が続いている。
 本地区は、古くからの中心市街地であった成徳地区とともに、倉吉駅を中心に商業業務地が形成されているものの、駅利用者や観光客を引きつける店舗は少ない状況にある。また、駅の南北は鉄道で分断されており歩行者の回遊が阻害されるなど、有効な土地利用が行われていない状況にある。
 このため、平成13年に倉吉駅周辺まちづくり基本構想を策定し、施策の展開を図っているところである。また、施策を推進するにあたっては、まちづくり協議会を設置し、市民との協働による施策の推進を進めている。
 さらに、平成17年11月に倉吉駅周辺いきいきまちづくり交通計画を策定し、本地区を含む倉吉駅周辺地区を交通バリアフリー法に基づく「重点整備地区」に位置づけている。この基本構想策定にあたっては、高齢者・障害者等の意見を反映するためワークショップを開催している。

課題
 ○当地区は、打吹地区と並び本市の中心市街地であり、以下のような課題の改善を図り、交通結節点機能の強化をはじめとして、中心市街地の活性化を図る必要がある。
 ・鉄道で分断されている南北の連携強化とあわせて、観光拠点、文化拠点等との連携を強化するなど、交通結節拠点としての機能強化を図る必要がある。あわせて、来訪者だれもがバス等の公共交通機関に乗り降りしやすい環境、バリアフリーな施設づくりを推進する必要がある。また、駅北側の住宅地は、駅に近いという地理的条件を活かした土地利用の形成を図り、魅力的で住みやすい住宅市街地への更新を図る必要がある。
 ・中部圏域の玄関口としてふさわしい、快適な交流・もてなし空間を形成する必要がある。このため、本市の情報提供や交流の場(地域交流センター)づくり、特産品のPRや販売の場(観光物産館)づくりなど観光・交流拠点の整備を進めるとともに、駅周辺の景観整備(駅北広場のモニュメント)を進める必要がある。なお、これら機能の充実には市民や地元からも要望がでている。また、地理的特性等を生かしてコンベンション機能の向上を図るなど、圏域及び地域の拠点性の向上にも努める必要がある。さらに、倉吉市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に位置づけられており、道路や公共施設(施設内のトイレなど)等のバリアフリー化を積極的に推進する必要があるとともにエスカレーター等の設置などにより駅利用者の利便性の向上を図り、駅利用者の増加を図る必要がある。また、地域住民の要望が強いATMコーナーの設置等により、地域住民や観光施設・駅利用者の利便性の向上を図り、市街地環境の満足度を高める。

将来ビジョン(中長期)
 ・平成18年1月に第10次総合計画を策定し、人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」の実現を目指している。その中で、交通バリアフリー法に基づく「重点整備地区」に設定している駅周辺地区はバリアフリーの推進や交通混雑箇所を中心とした道路の整備などを促進するとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅乗降客数	人/日	倉吉駅の乗降客数	通勤・通学などの定期利用者、観光客等の一般利用者の利用状況により、駅の利便性の指標とする。	4,784	H17	5,000	H23
交通環境に対する満足度	%	アンケート調査による交通環境の満足度(満足、やや満足の合計)	市民を対象にしたアンケートを実施し、車の通行しやすさや歩きやすさ等の交通環境を評価する指標とする。	17.2	H18	23.0	H23
市街地環境に対する満足度	%	アンケート調査による地域の満足度(満足、やや満足の合計)	市民を対象にしたアンケートを実施し、中心市街地の魅力度を評価する指標とする。	18.1	H18	23.0	H23
観光施設の利用者数	人/年	観光案内施設の利用者数	観光案内施設の利便性の向上を図り、利用者数の増加を指標とする	7,300	H18	7,500	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○交通結節機能の強化及び都市機能の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の玄関口であるこの地域の街路等を整備することにより、交通アクセス条件、歩行者の快適性といった交通結節点としての機能強化を図る。 ・南北市街地の一体化を図るため交通結節点改善事業で整備する「自由通路」とあわせて、駅南広場の改修等を行い、利用者の利便性の向上を図る。 ・土地区画整理により都市計画道路等の公共施設の整備、狭小街路の改善等を行い、良質な市街地の創出を図る。 	<p>道路(基幹事業／上井羽合線沿道土地区画整理事業地内区画道路) 高質空間形成事業(基幹事業/駅南広場改修) 地域生活基盤施設(基幹事業/電光掲示板) 地域創造支援事業(提案事業／上井羽合線沿道土地区画整理事業地内造成工事) 倉吉駅地区交通結節点改善事業(関連事業) 駅周辺道路整備事業(関連事業／(都)八屋福庭線、(都)駅北通り線(Ⅰ期)、(都)駅北通り線(Ⅱ期)、(都)駅北通り線(Ⅲ期)、(都)八屋福庭線(Ⅰ期)、(都)八屋福庭線(Ⅱ期)等)</p>
<p>○人にやさしく、交流空間となる施設整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した駅舎の改築とあわせて隣接地に、多目的ホールや展示施設を有する地域交流センターを整備し、住民相互の交流を促進する。整備にあたってはバリアフリーに配慮し、子どもから高齢者まで幅広い世代が気軽に集うことのできる交流・もてなし空間の形成を行う。 ・特産品のPRや販売を行う小規模な観光物産館を設置し、観光客・駅利用者の利便性の向上を図る。 ・駅前広場の整備にあわせて、モニュメントの設置を行い、交流・もてなし空間としての美観の向上を図る。 ・自由通路の整備にあわせて、バリアフリー化した公衆トイレやエスカレーターを整備し、来訪者にやさしい駅舎づくりを行う。 ・地域住民の要望が強いATMコーナーの設置等により、地域住民や観光施設・駅利用者の利便性の向上を図り、市街地環境の満足度を高める。 	<p>高次都市施設(基幹事業／地域交流センター) 地域創造支援事業(提案事業／観光物産館) 高質空間形成事業(基幹事業／駅北広場モニュメント) 高質空間形成事業(基幹事業／公衆トイレ) 高質空間形成事業(基幹事業／エスカレーター) 関連事業(ATMコーナー)</p>
<p>・</p>	
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●事業終了後の持続的なまちづくり活動の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・行政と商業者・市民等との協働によるまちづくりを推進する体制づくりを構築するため、地元NPOの活用やまちづくり協議会の設置などを検討し、市民等との協働によるまちづくりを継続的に推進する。 ・倉吉駅を中心とした賑わいの創出を図るため、NPOや市民とともに、まちづくりイベント開催などの検討を行う。 ●交付期間中の計画の管理について <ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中における目標に達成に向けた効果的で円滑な事業進捗を図るため、関係部課と連携をとりながら、適宜、事業計画の管理を行う。 ・事業の実施にあたっては地元説明会など広報・周知活動を行うとともに、事業の達成状況についても適宜報告を行う。 	

倉吉駅周辺地区(鳥取県倉吉市) 整備方針概要図

目標	大目標: “賑わいと交流” 梨の花温泉郷のエントランスの実現	代表的な指標	交通環境に対する満足度	%	17.2	(18年度)	→	23	(23年度)
	目標1: 倉吉駅を中心とした交通結節機能の強化及び都市機能の更新		市街地環境に対する満足度	%	18.1	(18年度)	→	23	(23年度)
	目標2: バリアフリーで人にやさしく、景観に配慮した交流空間となる施設整備の推進とまちなみ環境づくり		観光案内施設の利用者数	人/年	7300	(18年度)	→	7500	(23年度)

